

# 日本語表現法・アカデミックライティング

## 1 担当教員名

- ⑥ 准教授 森田 一平 (医療文化学講座 独語)  
 教授 古庄 義雄 (生命科学講座 化学)  
 教授 兼重 努 (医療文化学講座 文化人類学)

## 2 配当学年等

第1学年 後期 2単位 ⑤

## 3 学習目標

- ① 日本語表現法  
 言葉の基本的な仕組みや言語による情報伝達の仕組みを理解し、職業生活、社会生活において円滑で効果的なコミュニケーションを行う能力を習得する。  
 アカデミック・ライティング  
 1) アカデミック・ライティングのスキルが求められる理由を、「科学者の倫理」や「科学者と社会の関わり方」などを通して学ぶ  
 2) レポート執筆に必要な不可欠な学術的なルールの基礎知識を習得する  
 3) 学術的なルールに基づき、学習や研究の成果を正しく表現できる実践力を身につける

## 4 授業概要

- ② 日本語表現法  
 1. コミュニケーションのしくみ、言葉の働き  
 わたしたちはことばを使って何をしているのか  
 2. パラ言語的要素とその働き  
 3. 非言語的要素とその働き  
 4. わかりやすい話し方 聞き手をひきつける話し方  
 5. 話相手への心遣い  
 6. テキストを書くわかりやすく読みやすいテキストとは  
 アカデミック・ライティング  
 1) 科学者の関わった事件などを題材にして、科学者のあり方について学習し、アカデミック・ライティングの技術が必要であることを理解する  
 2) 課題に取り組むことで、引用のルールやマナー、著作権についての理解を深める  
 3) 課題演習を通して、レポート執筆の作法を実践する

## 5 授業内容

- ③ 第1回から第3回はアカデミックライティング、第4回から第15回は日本語表現法の授業を行う。

年月日(曜)	時限	担当教員	項目	内容	教室
令和2年					
10月7日(水)	4・5	古庄	アカデミック・ライティング1)	科学者にとって必要なもの	④
10月14日(水)	4・5	附属図書館職員	アカデミック・ライティング2)	引用のルール・著作権	④
10月21日(水)	4・5	兼重	アカデミック・ライティング3)	レポート執筆の作法	④
10月28日(水)	4・5	森田	コミュニケーションのしくみ		④
11月4日(水)	4	〃	(Aクラス)話し方 聞き手をひきつける話し方 (Bクラス)言葉の働き、コミュニケーションに関わる諸要因		④
11月11日(水)	4・5	〃	(Aクラス)言葉の働き、コミュニケーションに関わる諸要因 コミュニケーションモデル・コミュニケーション理論の紹介 (Bクラス)コミュニケーションモデル・コミュニケーション理論の紹介		④
11月18日(水)	4・5	森田	(Aクラス)コミュニケーションモデル・コミュニケーション理論の紹介 (Bクラス)理解のしくみ		④

年月日(曜)	時限	担当教員	項目	内容	教室
令和2年					
12月2日(水)	4・5	森田	非言語的要素とその働き		④
12月9日(水)	4・5	〃	非言語的要素とその働き		④
12月23日(水)	4・5	〃	(Aクラス)パラ言語的要素とその働き (Bクラス)非言語的要素とその働き		④
令和3年					
1月6日(水)	4・5	〃	(Aクラス)パラ言語的要素とその働き (Bクラス)様々な表現とその必要性 ポライトネスの手法		④
1月13日(水)	4・5	〃	様々な表現とその必要性 ポライトネスの手法		④
1月20日(水)	4・5	〃	(Aクラス)様々な表現とその必要性 ポライトネスの手法		④
1月27日(水)	4・5	〃	(Bクラス)話し方 聞き手をひきつける話し方 テキストを書く 良いテキストとは何か		④
2月3日(水)	4・5	〃	テキストを書く 良いテキストとは何か		④

## 6 授業形式・視聴覚機器の活用

### 日本語表現法

理論編で学んだことを実技や資料の分析作業を通じて確認する。

小グループに分かれて実技演習、実践的作業を行う。

グループ作業の時間は作業に集中し、時間内に結果を出すよう努力すること。

### アカデミック・ライティング

- 1) スライドを使った講義
- 2) スライドを使った講義、課題演習
- 3) スライドを使った講義、課題演習

## 7 評価方法

- ⑦ 日本語表現法(70点満点)とアカデミック・ライティング(30点満点)とする。  
単位取得には、双方の得点がともに60%以上でなければならない。

### 日本語表現法

作業にもとづく平常点、レポート、定期試験。授業に1/3以上欠席した場合は定期試験、同一年度の再試験、追試験を受けられない。

### アカデミック・ライティング

各回の評価方法は以下の通り(各回10点満点)。

- 1) 小テストにより評価する
- 2) 課題演習と確認テストにより評価する
- 3) 小テストにより評価する

3回の合計得点が17点以下の者は不合格とし、単位を認定しない。1回でも欠席すると、単位取得が危うくなるので、くれぐれも注意されたし。

## 8 教科書・参考文献

### 教科書:

#### 日本語表現法

授業中に適宜資料を配布。欠席した場合は必ず次回の授業までに各自コピーをすること。

#### アカデミック・ライティング

教科書は用いない

### 参考文献:

#### 日本語表現法

授業で紹介する。

#### アカデミック・ライティング

参考文献:石黒圭 2012『論文・レポートの基本:この1冊できちんと書ける!』日本実業出版社

木下是雄 2002『理科系の作文技術 改版』(中公新書)中央公論新社

戸田山和久 2012『論文の教室:レポートから卒論まで 新版』(NHKブックス)NHK出版

日本学術振興会編 2015『科学の健全な発展のために』丸善出版

山口裕之 2013『コピペと言われないレポートの書き方教室 3つのステップ』新曜社

## 9 オフィスアワー（授業相談）

月曜日昼休みおよび2時半から3時まで。そのほかの時間はメールにてアポイントメントを得てから。

## 10 学生へのメッセージ

日本語表現法

科学技術が進歩し、医療や通信分野で様々な機器が用いられる機会が増えても、人間同士のコミュニケーションの重要性は減ずることはない。いかにも当たり前で日常生活では忘れられがちなコミュニケーションの役割や意味、そのあり方などを、この授業を通じて意識し、再認識してもらいたい。この授業をきっかけに日常生活や職業生活における言語生活がより豊かになるように、能動的、積極的に授業に参加してほしい。また授業や試験には公正な態度でのぞむこと（森田）。

アカデミック・ライティング

- 1) 「科学者」に焦点を当てていますが、広い意味での「専門的技術者」にも当てはまる内容です。
- 2) 引用や著作権についての知識を身につけ、これからの学習や研究に役立ててください。
- 3) 医学生には卒業論文が課されていない為、学術的文章執筆の指導を受ける機会にあまり恵まれていません。そこで本授業が新たに開講されることになりました。みなさんの積極的な取り組みを求めます。

## 11 授業用URL

[https://amethyst.shiga-med.ac.jp/webopac/ufirdi.do?ufi\\_target=ctlsrh&lenid=201103409%2b201201523%2b201403219%2b201500337%2b201403193](https://amethyst.shiga-med.ac.jp/webopac/ufirdi.do?ufi_target=ctlsrh&lenid=201103409%2b201201523%2b201403219%2b201500337%2b201403193)